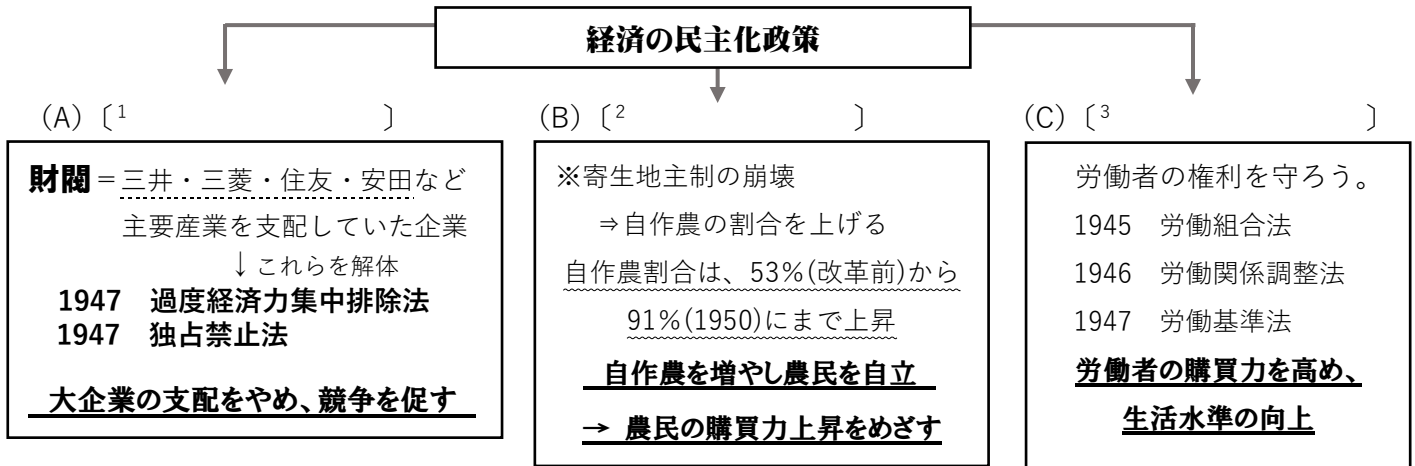


日本経済史(1)



(i) 経済復興と民主化【1945~1955】

* 第二次世界大戦敗北 ⇒ (300万人あまりの命、国富の4分の1を失う)



■ 日本経済の再建

1946 [4]

]: 経済建直しのために、限られた資源を石炭・鉄鋼などの
基幹産業に重点的に配分。

まずは主要どころから
復活させるぞ!



これに必要な資金はどこから?

- [①アメリカからの援助 (ガリオア: 食料品や衣料品、エロア: 工業原料の輸入)
- [② [5] (1947) という特別な会社を設立。→ 債権 (復金債) を発行

その結果、紙幣が大量に発行され、激しいインフレを招く → [6] 物価が戦前の200倍に

↓ **インフレ収束のために**

1948 GHQによる発表 = [7]

↓ **具体化**

1949 [8] : アメリカの銀行家ドッジが経済顧問として来日し、
日本経済の建直しのために指摘を行なった。

- ・ **超均衡予算** : 超増税 & 財政削減 ⇒ できるだけ税金で財政をまわそう。
- ・ **復金債** の発行禁止 = これ以上借金でまかなうのは禁止。
- ・ 単一為替レート (1ドル360円で固定) ⇒ 貿易の安定を目指す。

予定通りインフレは収束したが、
厳しい引き締めにより深刻なデフレ不況

ここで不況から脱出できる転機が!

1950 [9] 勃発 ⇒ 米軍からの武器注文で経済が潤う = [10]

⇒ 不況からの脱出!!! ⇒ 1955 戦前の生産水準を回復

戦前の生産水準を回復した日本は、積極的な設備投資を中心に急成長を遂げていく

(ii) 高度経済成長【1955~1973】

■ **高度経済成長期（1955~1973頃）**：年平均 約10%の実質経済成長率を記録

① 〔¹¹ 〕景気（1954~57）：輸入中心の民間設備投資によって支えられた好景気

- ・「もはや戦後ではない」（1956）
- ・耐久消費財ブーム：「三種の神器」（冷蔵庫・洗濯機・白黒テレビ）



② 〔¹² 〕景気（1958~61）

- ・池田勇人内閣〔¹³ 〕



10年間で実質GNPを倍にしよう！



③ 〔¹⁴ 〕景気（1962~64）：公共事業（東海道新幹線、首都高速など）の急増により起こった好景気

- ・貿易・為替の自由化
- ・〔¹⁵ 〕（経済協力開発機構）に加盟（1964）
- ・1963年…〔¹⁶ 〕11条国 ・1964年…〔¹⁷ 〕8条国へ移行

先進国の仲間入りを果たす

④ 〔¹⁸ 〕景気（1965~70）：輸出中心の好景気

- ・GNPが資本主義世界で第2位に
- ・経常収支が黒字に＝“国際収支の天井”解消
- ・3Cの普及（ car・cooler・color TV ）

※高度経済成長を支えた要因

- ① 活発な設備投資+技術革新＝重工業が発達
- ② 設備投資を支える、国民の高い貯蓄率
- ③ 1ドル360円の固定レート：円安で輸出有利

大量生産・大量消費社会の到来

* 規模の経済

：生産設備を拡大し利益の規模を高めていく

* 集積の経済

：関連企業を一定の地域に集める（例：太平洋ベルト）
⇒ 運搬や輸送のコストが下がり、利益が生まれる

* 急激な経済発展により、問題も発生

- ・公害問題 ⇒ 公害対策基本法（1967）
⇒ 環境庁設置（1971）⇒ 環境省（2001）
- ・都市部の過密化・住宅不足・交通渋滞
- ・ドーナツ化現象、農村部の過疎化 など

高度経済成長を経て、世界有数の経済大国となった日本。すべての事象には背景があるため、どんな流れでどんな事が起きたのかを説明できるようになると完璧！
次回のプリントではその成長が一旦終焉を迎えた時期から現代までの流れをまとめていく。

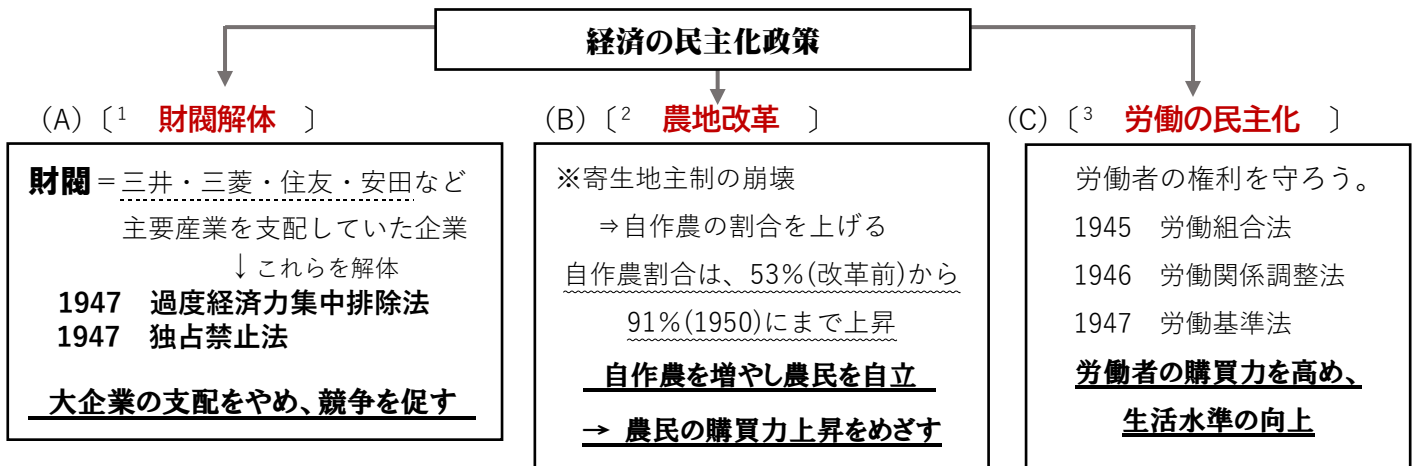


日本経済史(1)



(i) 経済復興と民主化【1945~1955】

* 第二次世界大戦敗北 ⇒ (300万人あまりの命、国富の4分の1を失う)



■ 日本経済の再建

1946 [4 **傾斜生産方式**] : 経済建直しのために、限られた資源を石炭・鉄鋼などの
基幹産業に重点的に配分。

まずは主要どころから復活させるぞ!



これに必要な資金はどこから?

- [1] アメリカからの援助 (ガリオア: 食料品や衣料品、エロア: 工業原料の輸入)
- [2] [5 **復興金融金庫**] (1947) という特別な会社を設立。→ 債権(復金債)を発行

その結果、紙幣が大量に発行され、激しいインフレを招く → [6 **復金インフレ**] 物価が戦前の200倍に

↓ インフレ収束のために

1948 GHQによる発表 = [7 **経済安定九原則**]

↓ 具体化

1949 [8 **ドッジ・ライン**] : アメリカの銀行家ドッジが経済顧問として来日し、
日本経済の建直しのために指摘を行なった。

- ・ **超均衡予算** : 超増税&財政削減 ⇒ できるだけ税金で財政をまわそう。 **安定恐慌**
- ・ 復金債の発行禁止 = これ以上借金でまかなうのは禁止。
- ・ 単一為替レート(1ドル360円で固定) ⇒ 貿易の安定を目指す。

予定通りインフレは収束したが、
厳しい引き締めにより深刻なデフレ不況

ここで不況から脱出できる転機が!

1950 [9 **朝鮮戦争**] 勃発 ⇒ 米軍からの武器注文で経済が潤う = [10 **特需景気**]

⇒ 不況からの脱出!!! ⇒ 1955 戦前の生産水準を回復

戦前の生産水準を回復した日本は、積極的な設備投資を中心に急成長を遂げていく

(ii) 高度経済成長【1955～1973】

■ 高度経済成長期（1955～1973頃）：年平均 約10%の実質経済成長率を記録

② 〔¹¹ 神武 〕景気（1954～57）：輸入中心の民間設備投資によって支えられた好景気

- ・「もはや戦後ではない」（1956）
- ・耐久消費財ブーム：「三種の神器」（冷蔵庫・洗濯機・白黒テレビ）



② 〔¹² 岩戸 〕景気（1958～61）

- ・池田勇人内閣〔¹³ 国民所得倍増計画 〕



10年間で実質GNPを倍にしよう！



③ 〔¹⁴ オリンピック 〕景気（1962～64）：公共事業（東海道新幹線、首都高速など）の急増により起こった好景気

- ・貿易・為替の自由化
- ・〔¹⁵ OECD 〕（経済協力開発機構）に加盟（1964）
- ・1963年…〔¹⁶ GATT 〕11条国
- ・1964年…〔¹⁷ IMF 〕8条国へ移行

先進国の仲間入りを果たす

④ 〔¹⁸ いざなぎ 〕景気（1965～70）：輸出中心の好景気

- ・GNPが資本主義世界で第2位に
- ・経常収支が黒字に＝「国際収支の天井」解消
- ・3Cの普及（car・cooler・color TV）

※高度経済成長を支えた要因

- ① 活発な設備投資＋技術革新＝重工業が発達
- ② 設備投資を支える、国民の高い貯蓄率
- ③ 1ドル360円の固定レート：円安で輸出有利

大量生産・大量消費社会の到来

* 規模の経済

：生産設備を拡大し利益の規模を高めていく

* 集積の経済

：関連企業を一定の地域に集める（例：太平洋ベルト）
⇒ 運搬や輸送のコストが下がり、利益が生まれる

* 急激な経済発展により、問題も発生

- ・公害問題 ⇒ 公害対策基本法（1967）
⇒ 環境庁設置（1971）⇒ 環境省（2001）
- ・都市部の過密化・住宅不足・交通渋滞
- ・ドーナツ化現象、農村部の過疎化 など

高度経済成長を経て、世界有数の経済大国となった日本。すべての事象には背景があるため、どんな流れでどんな事が起きたのかを説明できるようになると完璧！
次回のプリントではその成長が一旦終焉を迎えた時期から現代までの流れをまとめていく。

① 高度経済成長期

